

令和4年度第2次補正
探究的学習関連サービス等利活用促進事業費補助金

探究的な学び支援 補助金2023

効果報告レポート

【事業者名】

データを根拠にした未来探究学習推進協議会
(株式会社JTB・株式会社オーブントーン)

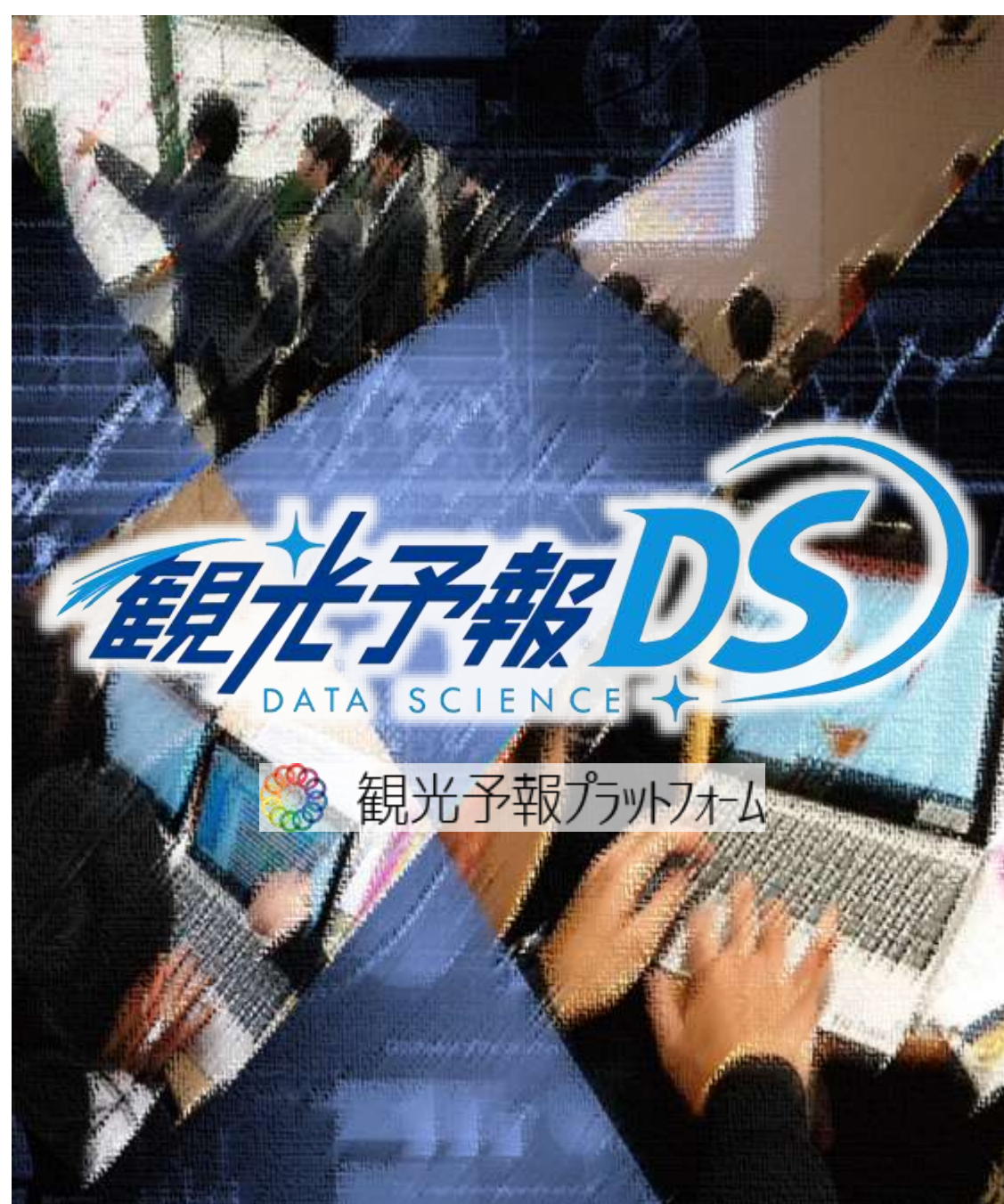
【サービス名称】

未来探究ゼミナール
(観光予報DS (Data Science) ・観光予報プラットフォーム)

【サービスの機能分類】

区分A-1 メインサービス
区分B メインツール
区分C 情報活用能力育成サービス

2024年1月



■ 探究学習等サービスの概要

社会の仕組みや人との繋がりが大きく変わりつつある今だからこそ、身近な課題を自分ごととして向き合い、データ（根拠）に基づいて未来の新しいスタンダードを創り出す力を育てるプログラム。

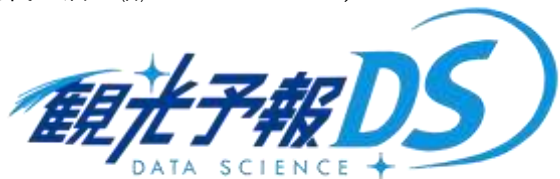
国内外の約44億泊のデータ（宿泊客の属性等）を持ち、動向把握・需要予測ができる「観光予報プラットフォーム」とSTEAM学習アプリケーション「観光予報DS（Data Science）」で観光、気象、産業など様々な分野のデータを複合的に分析しながら街や地域の課題を見つけ出し、根拠に基づく解決案を導き出すことをサポートする。



観光予報プラットフォーム

国内外の宿泊客の属性・動向把握分析、6か月先の宿泊予測の把握ができ、宿泊者の居住国、居住都道府県、年齢層、宿泊単価、滞在日数、参加形態、食事条件、宿泊先等の把握・分析が可能。更にこれらをクロス分析できるアプリケーション。

（販売代理店：㈱オープトーン）



観光ビッグデータをベースに、街や地域の課題を見つけ、データを掛け合わせながら分析し、相関を調べ、エビデンスをもとに（EBPM）、効果や影響を考えながら解決アイデアの創出までをサポートする学習アプリケーション。

（㈱JTB）

有用なデータを集約

RESAS（経済産業省・内閣官房）
V-RESAS（内閣官房） 気象（気象庁）
e-stat（総務省統計局） など

観光予報プラットフォーム・観光予報DS アプリを活用したSTEAM & 探究学習プログラム 未来探究ゼミナール

- 観光予報プラットフォーム・観光予報DSのビッグデータ、データや事実に基づくSTEAM型探究学習
- デジタル・タキノミーによる「学習プロセス」×「形成的評価」を基礎としたカリキュラム
- 総合的な探究の時間へ無理なく組み込めるカリキュラム

根拠に基づいて 未来を描く力を 育成

- 身近な観光や旅を通し、エビデンス×ICTの効果的な活用による「思考・判断・表現」の育成をサポート
- 「根拠に基づいて未来を描く力」を育み、根拠に基づいて未来の新しいスタンダードを創り出す力を育てる

■探究学習等サービスの概要

観光予報プラットフォームと観光予報DSを活用することにより、生徒・教職員共に情報を探し、データ収集する労力と時間から解放され、地域のデータがない、情報が古くて使えないといった問題からも解放され、また様々な地域が検索できることで他地域との比較も容易となる。

観光予報プラットフォーム

個々に自由な時間に街の特徴や過去の観光（宿泊）実績を調べるだけでなく、市区町村毎に6か月先の宿泊需要予測と地域の観光資源情報が閲覧できる。他に地域の需要（来客）予測を検索できるツールはなく、操作も簡単なことから、中央省庁、自治体、観光協会、観光事業者、大学など幅広く利用されている。

複数のデータから推計値を把握 ⇒ 地域全体の傾向把握



国別や年代別等、属性別の傾向を分析可能 ⇒ 因果関係の把握



生徒おひとり様
 月額10,000円（税別）

観光予報DS

観光ビッグデータをベースに、街や地域の課題を分析し、相関を調べ、エビデンスをもとに（EBPM）、効果や影響を考えながら解決アイデアの創出までをサポートする学習アプリケーション。全国どの地域でもデータが取り出せ、中・高校とレベルに応じて使用することができる。

データを掛け合わせ、分析 ⇒ 相関分析・他都市との比較が可能



経済的波及効果予測が可能 ⇒ アイデアの効果検証が可能



【総合編：8コマ、中高対象】
 生徒おひとり様 年額6,000円（税別）
 50名様未満の場合一校一律300,000円（税別）

【データ分析編：7コマ、高校対象】
 生徒おひとり様 年額4,000円（税別）
 50名様未満の場合一校一律200,000円（税別）

【代金に含まれるもの】 アプリケーション利用料、STEAM&探究学習活動案作成費、ワークブック、ルーブリック評価表作成及び監修料、副教材（ICTリテラシー向上ハンドブック）、JTB講師派遣料
【代金に含まれないもの】 初期設定・セットアップ費1校2,000円（税別）、ハードウェア調達及びWi-Fiなど環境整備に係る費、光熱費通信費、サポート費
【サポート内容】 マニュアル・ワークブック改修、操作・利用説明、導入研修、授業内容打合せ、授業立ち会い、フォローアップ、問合せ対応

学校等教育機関の抱える課題

教育機関では、探究学習と教科学習・行事との連携、人材・予算の確保など様々な課題を抱えている。

課題 1 総合的な探究の時間と他教科、学校行事との連携

課題 2 探究学習の広まり・教材の多様化による選択コストの増加

課題 3 サービス導入までの内部調整の煩雑化

課題の改善・解決を図るため、観光予報プラットフォーム・観光予報DSを用いた
「未来探究ゼミナール」プログラムを設計し、教育現場をサポート

「未来探究ゼミナール」プログラムの解決に資する特徴

1. 探究以外の科目にも利用可能なプログラムを提供

横断的な探究学習プログラムである「総合編」以外にも、「データ分析編」として新学習指導要領の数学Ⅰ・情報Ⅰで重要度が高まったデータ分析やデータ活用に特化したプランも用意。

2. 多様な実施実績とニーズに合わせたカスタマイズアレンジ

各学校のニーズ合わせ内容のアレンジができ、修学旅行の事前・事後学習にも活用できる。2022年度は24校、延べ3,799名（生徒3,567名 教員232名）が利用。

3. 総合的な探究の時間へ無理なく組み込めるカリキュラム

ソフトウェアを授業に無理なく、有効的に活用するための学習計画案、ワークブック、ルーブリック評価シートを組み込み、体験授業に終わらせず、生徒の成長と効果の振返りが可能。

■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

「未来探究ゼミナール」プログラムの内容

各学校の課題に合わせ、総合編とデータ分析編の2プランを用意し、街のデータの収集～課題立て、複数のデータの相関を見ながら立証、課題の解決に向けた提案の検討を進める。

『未来探究ゼミナール』 総合編

課題設定から成果発表までの一連の探究活動を実践できる**基本プラン**です。
 観光予報DSや観光予報プラットフォームなどの**データを根拠として活用**しながら、
地域探究活動を自分ごととしてとらえながら、未来を思い描くグループ探究プログラムです。

『未来探究ゼミナール』 データ分析編

新学習指導要領の数学I・情報Iで重要度が高まったデータの分析やデータの活用**に特化したプラン**です。
 観光予報DSや観光予報プラットフォームのデータを出力機能をもとに、**データへの親しみと理解**を深め、
地域探究活動を深めることができるSTEAM教育を推進するグループワークプログラムです。

コマ	探究学習	各時間の概要	主な学習活動	進行
1	導入	観光予報DSレクチャー 【テーマ】ビックデータに触れてみよう!	●観光予報DSを操作する ●興味のある街や地域について調査する	学校 (動画)
2	課題設定	具体化と問い立て 【テーマ】魅力や課題を深掘りしよう!	●グループで探究する内容を1つに決める ●具体化し、問いを立てる	JTB
3	情報収集	客観的な根拠となるデータ収集 【テーマ】必要なデータを探してみよう!	●問いに関するデータを探す ●データをもとに、未来に向けたアイデアを考える	JTB
4	整理分析	成果発表のための土台作り 【テーマ】ポスターの骨格を固めよう!	●必要なデータを活用できているか確認する ●調べたことや考えたこと、伝えたいことをまとめる	学校
5	整理分析	ポスター制作 【テーマ】アイデアを形にしよう!	●テーマやキーワードを組み合わせる	学校
6			●図やグラフ化し、データを組み合わせる	
7			●ポスター原案をグループの枠を超えて共有	
8	まとめ・表現	発表・審査・振り返り 【テーマ】成果を発信しよう!	●新しい価値を提案する ●デザイン、考察等の観点から評価する	学校

コマ	データ学習	各時間の概要	主な学習活動	進行
1	データ分析導入	身近にあふれるデータ 【テーマ】身近なデータに親しみを持とう	●自分たちでデータを作り出している ●身近なデータを考え、その活用事例を知る	学校
2	データ分析準備	データ分析の前に(1) 【テーマ】データの基本をおさえよう	●データの種類を考えてみる ●データを集めるポイントを知る	学校
3		データ分析の前に(2) 【テーマ】データを見るポイントをつかもう	●データを整理するポイントを理解する ●データに着目するポイントを考えてみる	学校
4	データ分析実践	今すぐできる! データ分析(1) 【テーマ】クロス集計と代表値の役割を知ろう	●ピボットテーブルでクロス集計を実践 ●グラフ作図と代表値の特徴をつかむ実践	学校
5		今すぐできる! データ分析(2) 【テーマ】データの“散らばり”について理解しよう	●ヒストグラムの作図 ●分散と標準偏差の活用事例を実践で理解	学校
6		今すぐできる! データ分析(3) 【テーマ】2つのデータの関係性について考えよう	●散布図の作図 ●共分散と相関係数の活用事例を実践で理解	学校
7	データ分析発展	大学レベルのデータ分析に挑戦 【テーマ】広がる統計の世界を少し覗いてみよう	●回帰分析の考え方 ●研究発表事例から探究活動のポイント理解	学校

全国ランキング

順位	自治体	年数	データ	ランキング
A	世田谷区	2015	165.7千世帯	81位/1747位
B	埼玉県にふれる郡市(0-14歳)	2015	46.5千人	57位/1747位
C	埼玉県にふれる郡市(15-64歳)	2015	238.1千人	69位/1747位
D	埼玉県にふれる郡市(65歳以上)	2015	122.4千人	40位/1747位
E	市選入人口	2015	4千人	89位/1747位
F	国産・国産品割合	2005	0.9千億円	97位/2189位
G	卸売・小売業割合	2005	3.6千億円	92位/2189位
H	飲食・宿泊業割合	2005	2.4千億円	87位/2189位



■ 探究的な学び支援補助金における導入実績

2023年度の導入実績

No	学校名	国公立/私立	中・高	導入学年	コース	利用プラン	授業回数	PC環境	探究地域
1	北海道中標津高等学校	公立	高等学校	2	総合ビジネス科	総合編	8コマ	一人一台	中標津町
2	愛知県立岡崎商業高等学校	公立	高等学校	1	商業科	総合編	8コマ	一人一台	岡崎市
3	北鎌倉女子学園高等学校	私立	高等学校	2	普通科	データ分析編	7コマ	一人一台	鎌倉市
4	西武台高等学校	私立	高等学校	1	STEAMコース	総合編	8コマ	一人一台	沖縄県・新座市

- ✓ これまで生徒も「本物」のデータに触れる機会も少なく、データに基づいた探究学習を行うため導入。
- ✓ データ分析の授業はあったが、分析する素材・データがなかったため導入。教科学習と探究の授業の連動を図った。
- ✓ データを用いた教室での探究活動と旅行行事を連動させることで、現地での体験をより良いものにできるよう取組を導入。

主な成果

2023年度は、様々な視点から地域を知る**教室での探究的な学び**と、その学びに基づく**現地訪問による学習の高度化**を図った。

学校間協働・発表の場（イベント&コンテスト）の充実を図り、**成果を発表の機会も創出した**。



■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

公立・高等学校

北海道中標津高等学校

～探究学習の成果を校内で発信～

- 【導入学年】 高2
- 【コース】 総合ビジネス科
- 【利用プラン】 総合編
- 【授業回数】 8回
- 【PC環境】 一人一台
- 【探究地域】 中標津町



出典：北海道中標津高校ホームページ

【取組の様子】



【課題・導入理由】 これまでは地元探究をフィールドワーク中心に実施しており、データの活用は行っていなかった。データに基づいた探究学習を行うため、また生徒も本物のデータに触れる機会も少なかったため導入。

取組内容

地元中標津を探究地域に設定、遠隔地の学校でも事前学習から授業実施まで先生・生徒をサポート

課題の設定

- ・中標津町の魅力や課題を、データに基づいて確認

情報収集

- ・それぞれのデータの結果から因果関係を把握し、地元の魅力が分かりやすいストーリーを構築。併せて観光協会へのヒアリング等フィールドワークも行った。

まとめ・表現

- ・校内で探究成果を発表予定

取組結果

■ リアルなデータを活用した探究学習、効果的な事前学習の実現

- ✓ データを活用した探究学習を実践することができた。
- ✓ 完全オンライン実施により遠隔地の学校でも先生の指導及び生徒の活動サポートができた。
- ✓ サポート終了後の2月に校内で成果発表会を実施予定

■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

公立・高等学校

愛知県立岡崎商業高等学校

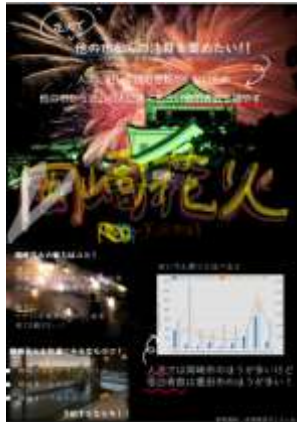
～探究学習の成果を**校外（コンテスト）**に発信～

- 【導入学年】 高1
- 【コース】 商業科
- 【利用プラン】 総合編
- 【授業回数】 8回
- 【PC環境】 一人一台
- 【探究地域】 岡崎市



出典：岡崎商業高校ホームページ

【取組の様子】



【課題・導入理由】 授業での取り組み内容を検討していたところ生徒の興味がわきやすいテーマである「観光」と科目がマッチ。これまでデータ分析を行っていなかったが、今回学校の所在地である地元を題材として取り組み。

取組内容

地域探究活動として地元の愛知県岡崎市を探究

課題の設定

- ・岡崎市の魅力や課題を、データに基づいて確認

情報収集

- ・それぞれのデータの結果から因果関係を把握し、地元の魅力が分かりやすいストーリーを構築

まとめ・表現

- ・未来探究祭（交流イベント&コンテスト）に45チームが出品、12チームが1次審査通過、11チームが2次審査通過

取組結果

■ 135名の生徒が成果発表に自主参加

- ✓ 8クラスある学年のうち45チームがコンテストに成果を出品
- ✓ 1月末の3次審査、2月末の最終審査に向けて準備中

■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

私立・高等学校

北鎌倉女子学園高等学校 ～探究学習の成果を校外（コンテスト）に発信・教科学習連動～

- 【導入学年】 高2
- 【コース】 普通科
- 【利用プラン】 データ分析編
- 【授業回数】 7回
- 【PC環境】 一人一台
- 【探究地域】 鎌倉市



出典：北鎌倉女子学園高等学校ホームページ

【取組の様子】



【課題・導入理由】元々PCを使い分析をする授業はあったが、分析するデータそのものが不足。総合探究の授業では鎌倉を題材にしており、情報Ⅱの授業でその探究学習内容に+データを活用し分析。総合探究の授業と情報Ⅱの学習の連動を図った。

取組内容

情報Ⅱの授業内容と連携し、高度にデータを分析し、因果関係を把握、地域の魅力や課題を動画で分かりやすく発信

課題の設定

- ・鎌倉市の魅力や課題を、データに基づいて確認

情報収集

- ・それぞれのデータの結果から因果関係を把握し、地元の魅力が分かりやすいストーリーを構築

まとめ・表現

- ・未来探究祭（交流イベント&コンテスト）に3チームが出品、全チームが2次審査通過

取組結果

■ 授業を受けた生徒全員がコンテストに参加

- ✓ 全チームがコンテストに成果を出品
- ✓ 1月末の3次審査、2月末の最終審査に向けて準備中

日帰りじゃもったいない!? 寝ても覚めても楽しい鎌倉



■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

私立・高等学校

西武台高等学校

～探究学習の成果を校外（コンテスト）に発信・学校行事と連動～

- 【導入学年】 高1
- 【コース】 STEAMコース
- 【利用プラン】 総合編
- 【授業回数】 8回
- 【PC環境】 一人一台
- 【探究地域】 沖縄県・新座市



出典：西武台高等学校ホームページ

【取組の様子】



【課題・導入理由】 2023年よりSTEAMコースを新設するにあたり、探究学習をどのように進めていくか悩んでいた。本サービスの思考プロセスとSTEAM教育の親和性に魅力を感じ導入に至った。

取組内容

データを分析し、旅行先の魅力や課題を動画で分かりやすく発信

課題の設定

- ・ 修学旅行先の沖縄、学校所在地の新座市の魅力や課題を、データに基づいて確認

まとめ・表現

- ・ 未来探究祭（交流イベント&コンテスト）に5チームが出品、全チーム1次・2次審査通過

旅行先の検討・プレゼン

- ・ 修学旅行とは別にSTEAMコース独自の旅行を計画中。本システムを活用し各班各班で異なる旅行先を自分達で決め、保護者にプレゼンテーションを行った。

修学旅行先で情報収集（2年次）

- ・ それぞれのデータの結果から考察すると共に旅行先で様々な情報を収集して知見を広げる（予定）

取組結果

■ 授業を受けた生徒全員がコンテストに参加

- ✓ 全チームがコンテストに成果を出品、1月末の3次審査、2月末の最終審査に向けて準備中
- ✓ 2年時に実施する修学旅行先の沖縄や学校所在地の新座市を探究先としたため、生徒たちは苦戦しながらも楽しんで取り組むことが出来た。

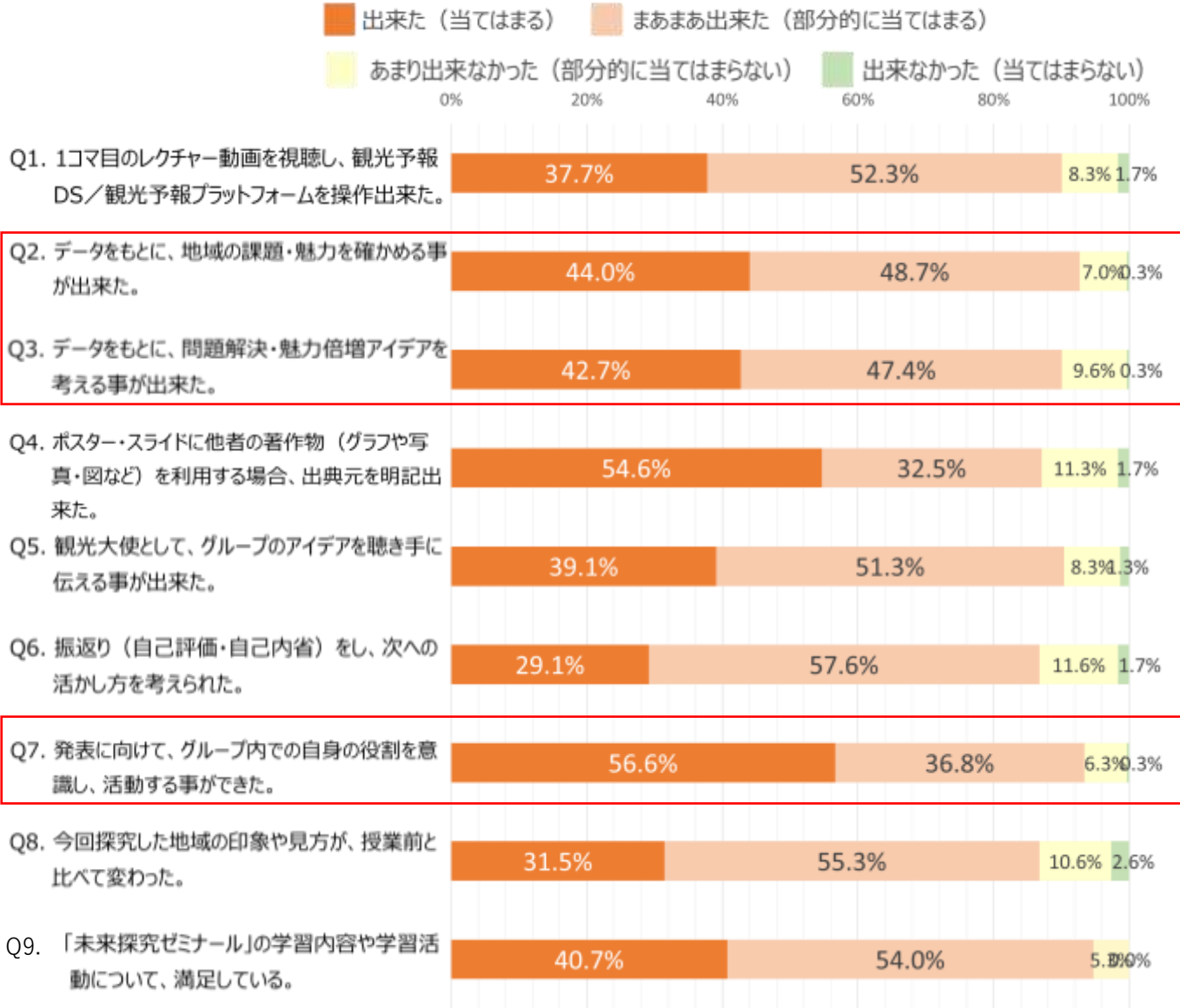
サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

▶STEAM & 探究学習プログラム活用効果調査概要

調査方法	Creative SurveyによるWebアンケート
調査期間	2023年12月1日～2023年12月31日
調査対象	プログラムが全て終了している高等学校（生徒337名）
回答状況	302名（89.6%）

▶STEAM & 探究学習プログラム活用の目的の達成状況

- ✓ 全ての項目で、「出来た」が「出来なかった」の回答の割合を上回っている。
- ✓ 「出来た」の項目に着目すると＜Q7. 発表に向けてグループ内での自身の役割を意識し活動する事ができた＞が56.6%
 「出来た」「まあまあ出来た」の合計に着目すると、＜Q2. データをもとに、地域の課題・魅力を確認する＞、＜Q3. データをもとに問題解決・魅力増アイデアを考える事が出来た＞は90%を超えており、**データを活用した整理分析はある程度達成。**
- ✓ 「出来なかった」、「あまりできなかった」の合計に着目すると、9項目の中では＜Q6 振り返り（自己評価・自己内省）をし、次への活かし方を考えられた＞、＜Q8 今回探究した地域の印象や見方が、授業前と比べて変わった＞が10%を超えており、**振り返りを通じて次回への反省点とすること**についてはやや課題が残る。



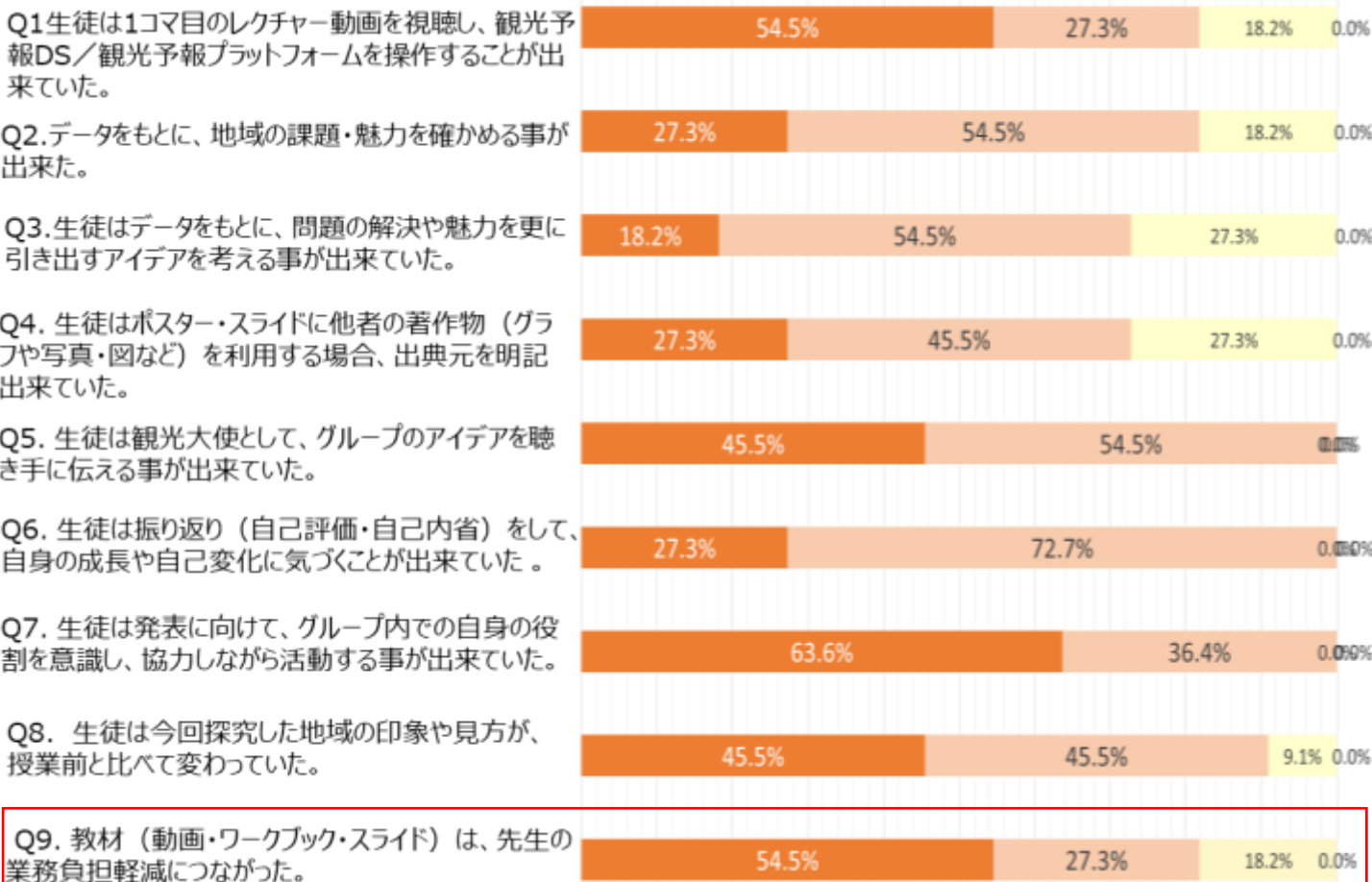
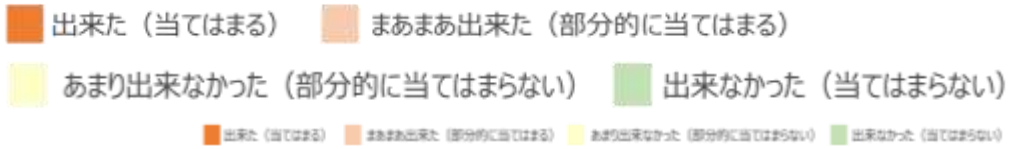
■サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

▶STEAM & 探究学習プログラム活用効果調査概要

調査方法	Creative SurveyによるWebアンケート
調査期間	2023年12月1日～2023年12月31日
調査対象	プログラムが全て終了している高等学校（教員11名）
回答状況	11名（100%）

▶STEAM & 探究学習プログラム活用の目的の達成状況

- ✓ 全ての項目で、「出来た」が「出来なかった」の回答の割合を上回っている。
- ✓ <Q.9 教材（動画・ワークブック・スライド）先生の業務負担軽減につながった>においては「出来た」が54.5%、「まあまあ出来た」と合わせると81.8%と本サービスを導入することにより教職員の方の業務負担軽減につながったと言える。
- ✓ <Q5. 生徒は観光大使として、グループのアイデアを聴き手に伝える事が出来ていた。><Q6. 生徒は振り返り（自己評価・自己内省）をして、自身の成長や自己変化に気づくことが出来ていた。><Q7. 生徒は発表に向けて、グループ内での自身の役割を意識し、協力しながら活動する事が出来ていた。>の3項目については「出来た」「まあまあ出来た」の合計100%という結果となった。



■サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

▶**生徒の感想** データを使った事前学習を行うことで、これまでにない視点を持って地域に関わることができた。一方で、授業後の振り返りについて要望が出ている。

■「出来た」・「出来なかった」の合計が高い項目に関する生徒の感想

【データを基にした地域の課題・魅力の発見】

- 自分の街の問題や魅力について調べて考えることができた。
- 自分が今まで知らなかった地域の一面が知れた。新たな地域の魅力を発見することができた。
- 感じていたことをデータで確認すると想像以上に差があることが分かった。
- 今回の授業で様々なデータから根拠付けて考えることが大切だと分かった。

- △調べたものを街で見かけないのでわからない。
- △探究した結果、ほとんど印象通りだった。
- △難しかった。グラフからみてよく分かった。

■「出来た」・「出来なかった」の合計が低い項目に関する生徒の感想

【未来探究ゼミナールの学習内容・学習活動】

- △時間が足りなかった。
- △内容が難しくわかりにくかった。
- △エントリーが難しかった。

【グループ内での自身の役割を意識・活動】

- グループで協力しながら課題を解決していくことができた。
- 役割分担や進め方が難しく、反省点が見つかり直していこうと思えた。

▶**教職員からの感想・要望** 地域活性化やデータの扱いなど、普段の授業ではあまり取り上げられない内容を外部事業者が連携しながら生徒主体で探究することで、進め方について**新たな展開の可能性創出**につながった。

- 地元の人知らない魅力を発信していた
- 新しい気づきを発表する班が多くあった
- 根拠が明らかになり**、地域の特徴を、理解したから。
- データに基づき、科学的な根拠により発言すること、表現することができている。**
- 内容を理解するのが難しかったので、提示資料などは大変ありがたかったです。
- 生徒たちにとって外部の発表があることがよかったと思ったから。
- 観光ビジネスについて考えることができました。ありがとうございました。
- データ活用という新たな視点での学びは生徒にとっても新鮮**である

- △1年生で取り組んでいる分、生徒はそれを外部へ発表するという意味はあまり持っていないのが現状です。内容を理解するのは大事ですが、他の科目との重なりも感じるため、次年度導入に関しては再度検討が必要かと感じています。
- △エラーが出て先に進めない場面があった。システムが改善されるとよい。

■ サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

■ 課題①

- ✓ 総合的な探究の時間と他教科、学校行事との連携が難しい
- ✓ 特に文系教員はデータ利用に関しての知見がなく、授業で触れることも初めてというケースがある

■ 改善策①

学校行事や教科学習と連動しやすいプログラムの拡充 はじめて授業でデータを扱う教員にとってもわかりやすい内容

- ✓ そもそも活用できるデータを持っておらず、またデータを活用した授業を行うことが初めての場合も多い。
単にデータを提供するだけではなく、データをどのように見るか、どのように分析するか等のポイント、コツも含めて授業として成り立つサービスでなければならない。そのため鮮度の高い「本物」のデータを提供すると共に、データの見方、活用方法等、事前学習から授業実施まで教職員・生徒のサポートを実施した。
- ✓ 修学旅行先のエリアを探究先とすることにより旅行の事前・事後学習、旅行先でのフィールドワークなど、教室での探究学習と学校行事を連動させることで、現地での体験により意味を持たせることができる。
- ✓ 探究学習の時間を主な対象とした「総合編」の他に、情報の授業でも活用できる「データ活用編」を用意。
探究学習の授業内容を活かした情報の授業を実施することができた。
- ✓ 今後は、より教職員・生徒にとってわかりやすい、興味を持ちやすいデータ・サービス内容を検討し、データを活用した授業へのハードルを下げ、取り組みを広げていくことを検討。

■ サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

■ 課題②

- ✓ 探究学習の広まり・教材の多様化による選択コストの増加

■ 改善策②

多様な実施実績とニーズに合わせた カスタマイズアレンジ

- ✓ 裾野が広く、どの教科からもアプローチ可能な探究学習において、様々な分野・角度から教育教材が販売され、日々忙しい業務の中でどの教材がどのような授業構成にできるのかを調査する時間がない。
- ✓ プログラムの内容が明確であり、授業の到達度を図りやすい内容であることが重要である。また生徒にとって親しみやすい内容とすることで、興味をもって授業に取り組んでもらうことができる。
- ✓ 未来探究ゼミナールではコマ数や発表の場としての未来探究祭への参加など導入先の要望に合わせてカスタマイズが可能。内容も修学旅行や地域探究に対応することができる。
- ✓ 未来探究ゼミナール総合編自体のアレンジに加え、「データ分析編」や「思考力トレーニング編」を加えてのアレンジも可能となり、より学校ごとに目指す授業の姿、到達目標を達成するために必要な授業の内容に近づけることができる。

■ 課題③

- ✓ サービス導入までの内部調整の煩雑化

■ 改善策③

総合的な探究の時間へ無理なく組み込める カリキュラム

- ✓ サービスを導入するにあたって、プログラムに合わせて授業計画を組みなおしたり、授業で使用するシート類を作り直したりと教員にとって手間もかかる。
- ✓ 授業を行うにあたりデータを探したり、事前準備を行わなければならない。また、評価基準も新たな基準を設けなければならない、成果物の判定も難しい。
- ✓ 本サービスはソフトウェアを授業に無理なく、有効的に活用するために学習計画案・ワークブック・ルーブリック評価シートもプログラムとして導入できるパッケージとなっている。
導入に際して教員に負担となる工数を減らすことで、授業自体の内容のブラッシュアップに時間を集中させることができ、生徒の成長と効果の振返りが可能である。

■サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

▶サービスの導入・運用について、実際に直面した課題と今後それを解決するための改善策

	課題	改善策
導入時	<ul style="list-style-type: none"> ✓各学校ともに既に年間の授業計画が決まり、授業がスタートしている状況。 ・導入を希望する公立学校と教育委員会の協議時間の問題。補助金を利用し導入を検討されていたが、教育委員会との協議に時間を要し、申請を見送った学校もあった。 ・授業スケジュールの確保、調整。学年全体での導入を検討していたが、学内手続きが間に合わず一部クラスでの導入となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓各学校、先生方、教育委員会と日頃から密な連携を図り、年間計画の段階で入れてもらえるように働きかけを行っていく。 ✓学校行事、教科学習との連携を図り無理なく授業カリキュラムに取り入れられる内容、コマ数を提案。
運用時	<ul style="list-style-type: none"> ✓授業時間数の不足 授業コマ内で課題が終わらず宿題で取り組むケースも発生。 ✓探究学習として多種多様なテーマへの対応 各学校ごとに求めるレベルも異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓各学校の授業スケジュールや意向に合わせた授業カリキュラムのアレンジやプランの多様化を検討。 ✓講師派遣、運営サポートの内容を再検討。

搭載データの検討、プランの多様化、先生方への研修、探究学習コーチ、講師派遣等、サービス内容の見直しを図ると共にChatgptなど新たな技術の活用も検討し、プログラムの充実・質の向上と学校・教職員の方々の更なる負担軽減を目指す。

地球を舞台に、人々の交流を創造し、平和で豊かな社会の実現に貢献する。
を経営理念に、IT 専門会社と連携による探究的な学び支援事業を展開しています。



社名	株式会社 J T B	【財務情報】	
資本金等	10,000万円	売上高	977,977百万円
代表	代表取締役社長執行役員 山北 栄二郎	総資産	760,665百万円
設立年月	1963年11月12日		(2023年3月期)
本社	東京都品川区東品川2-3-11		
従業員数	18,663人 (グループ全体2023年3月31日時点)		

社名	株式会社オープントーン	【財務情報】	
資本金等	1,500万円	売上高	399百万円
代表	代表取締役社長 佐藤 大輔	資本金	15百万円
設立年月	2003年2月17日		
本社	東京都千代田区神田須田町2-5-2		
従業員数	35人 (パート・アルバイト除く)		

旅行業を中心に事業を営む他、企業や団体、教育、行政等に関わるお客様のさまざまな課題をともに考え、その解決に向けた高付加価値なサービスの提供により、お客様の課題解決と価値向上に貢献

WEBシステム開発及びシステムコンサルティング、IC タイムリコーダーの開発・サービス提供、システム開発に関するセミナー開催、書籍の執筆・出版
Webコンテンツの作成・運営
AI、ビッグデータ、IOT 等、IT を用いた研究開発

■ お問い合わせ窓口

株式会社 J T B 霞が関事業部
 郵便番号 100-6051
 住所 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル23階

担当 佐伯・高知尾
 電話番号 03-6737-9263
 E-mail k_saeki071@jtb.com